

新しいことにチャレンジする、

満ち足りた毎日

平成17年3月にご入居された 細井幸子様

人の輪も広がる
一眼レフカメラに夢中

ふるさとの熊本を離れて50年。人生の大半を関東で過ごされた細井さんは、ご主人を亡くされてから3年後にこれからの自分の生き方について色々考えられたのだそうです。「子どもがいなくてもあつて、とても不安になりました。そんな時に、熊本に住むいところから『グランガーデン熊本』が建設されると聞き、パンフレットを取り寄せました。タイミングがよかったですね」。また、竣工パーティーに聖路加国際病院の日野原重明先生の講演会があると知り、かねてより先生のファンだったという細井さんは、熊本に帰ることを決断されました。

いろいろなものにチャレンジするのが好きだという細井さん。入居後、パソコンやコーラスのサークルに参加、さらに館内から飛び出して一眼レフカメラの教室にも通っています。「撮りたいものはたくさんありますが、歴史が好きだった主人のために、熊本城を撮影して仏前で披露したりしています。先生から教えていただくほか、さ



まざまな生徒さんに出会い、人の輪が広がるのも魅力です」と、すっかりカメラに夢中のご様子。また、館内でのイベントや行事にも積極的に参加。博多座への観劇、阿蘇や菊池へのバス旅行、健康講話など、さまざまな催しの中から、自分のスケジュールに合わせて選んでいます。「スタッフや入居者の方からは『いつも楽しそうですね』と言われるのですが、それも健康だからこそ。自分でスケジュールを立てて、自由に動くことが楽しいんですよ。体力が続く限り、カメラや旅行は続けていきます」と、

趣味への意欲はますます高まっています。「食事や施設の充実ぶりにも満足していますが、心強く思うのは親身になって接してくれるスタッフの方々。パソコン操作を教えてくれたり、作品展に出品する写真と一緒に選んでくれたり。主人の話をしていたら、一緒に涙ぐんでくださったこともあつて……。いい人たちに囲まれて暮らしているのだと喜んでいきます」と、笑顔で話される様子が満ち足りた毎日がうかがえました。